

# 若き、附中

熊本大学教育学部附属中学校

学校だより

平成30年12月19日

第15号

《文責：高木》

れたのをきっかけに私は初めて参加した。温かい家の中から外に出てみると、外には真冬の寒さが待っていた。「いつも、こんな寒い中パトロールを行っているんだ」というのが、私の最初の感情だった。しばらくして、着々と人が集まってきた。「やっ」と始まった。と張り切っ、歩き出した私だ、だが、思ったよりもパトロールは長い。いつもは出る声も気が利かしくさや寒さで思っ様に出ない。回る先で、家の中からあふれている温かい光。楽しそうなき。私がこんなに一生懸命ををかけているのに、家の中の人は何も知らない。だが、祖父や防犯パトロールの方は、聞く聞かず関係なく、声を張り上げている。パトロールが始まり、地域の犯罪はとも減ったようだ。



帰り道。緑色のベストと帽子をかぶった人が、皆の歧路に立っていた。よく張り替えられている地域のポスト。七夕の時期になると、通学路のある家の人は短冊を用意して、笹飾りを立ててくれて、私達に「書いていってね」と待っていてくれた。

## 今年もお世話になりました。

気がつけば、今年も残りあとわずかです。今年最後の若き附中は、この年末にふさわしい、心がほっこりする作文を紹介します。

### 地域から起る笑顔の連鎖

二年三組 廣岡

「とじまり用心、火の用心 カシカン」毎日、夜に聞こえてくるこの音。私にとっては、当たり前だ。でも、それは当たり前前ではないと気付いた。



私の住んでいる地域では、私の連の暮らしが安全で安心できるように、夜の防犯パトロールが行われている。私が産まれる以前

前に地域で暴行や空き巣が多発していたようだ。その時から始まったパトロールは、地域の自治会の方を中心にした、ボランティアで行われている。昨年他界した祖父も、そのメンバーの一員だった。そして、私の気持ちを変えてくれたのは、祖父がまだ生きていた年の冬の日の出来事だ。クリスマスになる日、お菓子や文房具と地域の子ども達に配ってくれた。私も小學校の時、そのプレゼントを楽しみに待っていた。中学生になり、祖父に「パトロールに参加してみね」と言われ

私は、地域の方との関わりを振り返ってみた。小學校の時の

「とじまり用心、火の用心 カシカン」 今日、防犯パトロールの音が、聞こえてくる。

この廣岡さんの作文は、今年の全国「小さな親切」作文コンクールで、みごと中学生の部入選となりました。附中でも、この一年お世話になった方々への感謝の気持ちをおこめて、生徒会主催の恩がえしプロジェクトが実施されています。生徒のみなさんが云ける感謝の気持ちや笑顔の連鎖となり世界中に広がってほしいと思います。また、生徒のみなさんは、いよいよ冬休みにはいります。特に三年生は受験をむかえたいへんと思いますが、健康に留意し、家族の一員としての役割もしっかりとはたして下さい。最後に、熊大附中、いろいろな面でお世話になりました。地域の方をはじめ、保護者の皆様、生徒諸君、そして本校職員メンバーに感謝をし、年の瀬をむかえたいと思います。皆様、よい年をお迎え下さい。



※ 新聞広報課が発行した附中新聞は月号に、本校生徒の約60%がサニタさんかいると信じているというアンケート結果が報じられました。保護者の皆様、そういうことだとうです。